患者の尊厳と安全管理の間での看護師の葛藤
～物品持ち込み制限の調査から～

医療社団法人　五稜会病院
菅原　智子・吉野　賀寿美

はじめに

精神科の閉鎖病棟では、患者の安全管理のために物品の持ち込み制限を行っている
（物品チェックは主に看護師が行う）
↓
しかし、私物の持ち込みを制限することで、患者の尊厳を損なってはいないだろうか？
↓
葛藤の声

目的

- 物品持ち込み制限に対する看護師の思いと患者の思いを照らし合わせ、看護師が葛藤少なく安全な治療環境を整える事ができ、かつ患者がその人らしく生活できる環境整備をはかるための手だてを検討する。

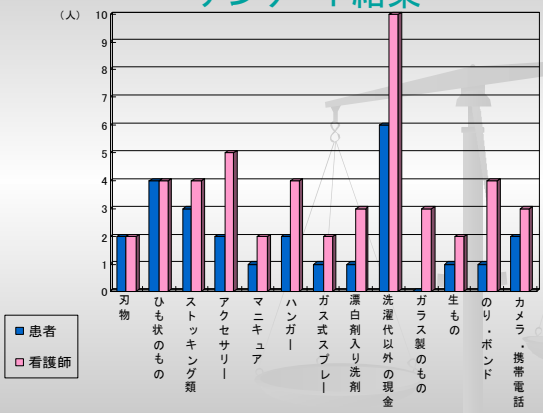
調査方法

- 当院の急性期閉鎖病棟に入院している（以前入院しており他病棟に転棟した）患者と、同病棟勤務の看護師を対象に、物品持ち込み制限に関するアンケートを行い集計した。
- アンケートは、事前に当院の倫理委員会に承認を得て、対象者に口頭および書面で説明をした上で実施した。

結果

- アンケート回答者
  【看護師】15名（男性6名・女性9名）
  年齢：20代～60代
  【患者】13名（男性8名・女性5名）
  年齢：10代～60代
  疾患：統合失調症5名
  アルコール依存症4名
  その他　てんかん、双極性感情障害、うつ病、解離性障害
  病棟：急性期閉鎖病棟9名、開放病棟4名

アンケート結果



患者側の意見

- 日常生活と変わらない生活がしたい。
- ちょっときびしすぎる。（数名）
- 病院でも、オシャレがしたい。

- ある程度持ち込み制限はあると思う。
- 今の状態で十分間に合いますし、この状態を続けていったらいいと思います。

看護師側の意見

- 物品の制限は必要だが、緩和すべきところはあると思う。（同意見多数）
- 刃物類以外は、なるべく制限したくない。
- いまだに、どの物品を制限すればいいのか迷うこともある。
- 定期的に再検討を行っていく必要がある（同意見多数）

考察とまとめ

- 看護師の抱く葛藤は、制限している物品と患者・看護師の意見との食い違いによって起こると考えられる。危険度が高くなく日常生活で必要なものが制限されていたことも影響していると考えられる。
- 今後、より患者が理解しやすいように説明方法を工夫したり、定期的に病棟内での持ち込み制限物品の内容を再検討していく必要がある。

ご清聴ありがとうございました